

雨天時対応マニュアル

前日に雨予報であった場合、インドアコートをなるべく確保する。予備日を過ぎそうな場合に雨予報な時はインドアコートを確保する。自校の都合で相手校に強要はしないこと。

- ① 試合会場地点の雨雲レーダーを確認し、両校話し合い、何時間待機をするかを決める。オムニコートで試合ができる可能性がある場合は、最低でも 2 時間は待機すること。
- ② コート選択権所有校のコートレフェリーが、関東学生テニス連盟(0355774940)に連絡。学連のコートレフェリーが派遣されていない場合は、両校の代表者が連絡すること。※1・2 部校の連絡は学連のコートレフェリーが行います。
- ③ コート選択権所有校コートレフェリーは途中経過をメールフォームにて報告。メールフォームには、試合会場、試合状況、待機時間、再開予定時刻などを記入すること。
- ④ 再開する、中止する、会場移動、どの場合でも学連に報告
- ⑤ 再開をしても試合が終わらなかった、中止にした場合、原則として翌日朝 9 時より試合を再開する。翌日の天気予報などから、翌日朝 9 時より試合を開始できないことが明確な場合はこの限りではない。(一部校の場合は 10 時試合開始とする)プラクティスの有無は両校で話し合って決めること。試合前 アップは 5 分間とする。
- ⑥ 会場移動をする場合は、両校の合意のもとで、できるだけ近くのインドアコートを探す。インドアコートの使用料は両校で折半すること。
- ⑦ インドアコートが見つからない場合は、両校の合意のもとで、別の日に試合を延期する。
- ⑧ 延期した試合は、原則として次の予備日に行く。予備日がない場合は、両校の都合を考慮して、学連に相談する。
- ⑨ 延期した試合は、前日までに終了した試合の結果をそのまま引き継ぐ。途中経過の試合は、中断した時点から再開する。
- ⑩ 延期した試合の会場や時間は、両校で話し合って決める。学連に報告すること。

熱中症対応マニュアル

- ① 熱中症の疑いがある選手や関係者がいた場合は、すぐに応急処置を行う。応急処置としては、日陰や涼しい場所に移動させる、水分や塩分を補給させる、冷却シートや氷嚢などで体温を下げるなどがある。
- ② 応急処置を行った後、症状が重い場合は、救急車を呼ぶ。救急車を呼んだ場合は、学連に報告すること。
- ③ 症状が軽い場合は、休憩をとらせる。休憩中に症状が悪化した場合は、救急車を呼ぶ。
- ④ 熱中症になった選手や関係者の詳細な情報をメールフォームにて報告する。メールフォームには、氏名、所属校、役割、発症時刻、発症場所、症状、応急処置の内容、救急車の有無などを記入すること。

ペナルティー対応マニュアル

- ① ペナルティーの発生した試合は、コートレフェリーがその場で判断し、適切な処分を行う。処分の内容は、警告、ポイントペナルティー、ゲームペナルティー、デフォルトなどがある。
- ② ペナルティーの発生した試合の結果は、コートレフェリーがメールフォームにて報告する。メールフォームには、試合会場、試合番号、両校の氏名と学年、ペナルティーの理由と内容などを記入すること。
- ③ ペナルティーの発生した試合の結果は、学連が確認し、必要に応じて追加の処分を行う。追加の処分の内容は、出場停止、失格などがある。
- ④ 追加の処分が決まった場合は、学連が両校に通知する。通知された両校は、追加の処分に従うこと。